

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年10月24日

【評価実施概要】

事業所番号	570406207
法人名	医療法人 光智会
事業所名	グループホーム おおだて
所在地	大館市片山町3丁目14番14号 (電話) 0186 - 49 - 2240
評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤5丁目1番地の1
訪問調査日	平成 20年 10月 21日

【情報提供票より】(平成20年10月3日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 12 年 9 月 11 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数	計 18 名
職員数	17 人	常勤 18 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 18 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	4 階建ての 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費:180円 他 実費
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 260 円	昼食 370 円	
	夕食 340 円	おやつ 0 円	
	または1日当たり	円	

(4) 利用者の概要(10月 3日現在)

利用者人数	18 名	男性 1 名	女性 17 名
要介護1	3 名	要介護2	10 名
要介護3	5 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85.2 歳	最低 75 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人光智会 西大館病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは市内の中心部に位置しており、近くには商店や消防署などの公共機関もあるなど、地域資源に恵まれた環境にある。ホームは4階建ての建物の3階にあり、昨年11月より2ユニット体制で運営している。ホーム内はかつて病棟であったスペースを改装し、温かみのある内装や広く使いやすい台所、季節感のある装飾など、家庭的な雰囲気を醸し出すための工夫が感じられる。また、広いベランダではプランターを並べて野菜づくりを行っており、入居者の大きな楽しみとなっている。ホームが入っている建物には、同法人の訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、デイサービスが別の階にあり、医療や行事等の面で協力が得られる体制が整っている。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価結果を踏まえ、栄養士による献立表のチェック体制の確立やホーム便りの家族への発送、また広いベランダを気分転換などの場所として活用するなど、具体的な改善に取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は職員全員が作成した上、会議を通じて取りまとめられている。管理者、職員は自己評価を行う意義を理解しており、今後のサービス改善に活かそうとする姿勢が伺われる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は2~3ヶ月に1回のペースで実施され、ホームの状況の定期報告や意見交換が行われている。家族からの提案がきっかけとなり、家族等の協力を得ながら2ユニット合同でマイクロバスを借りての外出が実現するなど、会議の開催が外部からの意見等を取り入れる良い機会となっている。なお、会議の議事録はこまめに整備しておくことが望まれる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 入居者の状況や職員の異動等については、ホーム便りで毎月家族に伝えていく。今後は、家族等の意見や苦情等を受け付ける「相談日」を設け、その内容をホーム便りで家族等に知らせる取り組みを予定している。その他、入居者の体調変化等、必要に応じて随時電話連絡をしている。苦情受付の窓口、担当者は重要事項説明書に明記されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会から情報を得ながら、盆踊りや神社のお祭り、運動会など、地域の行事に参加している。また、ホームが入っている法人の建物(介護センター)全体でボランティアを受け入れており、月1回お茶会を開催するなどの取り組みも行っている。

2. 評価報告書

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者や職員が「自分が高齢者の立場になった時、どのように暮らしたいか」ということをリストアップして、話し合いを通じ、協力して事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「家族や地域とのつながりを大切にし、季節を感じながらその人らしく安心した生活が送れるように」という主旨の理念がホーム内に掲示されている。また、理念の実践については、普段の業務の中で管理者が職員に話をする機会を設けている。		
2.地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会から情報を得ながら、盆踊りや神社のお祭り、運動会など、地域の行事に参加している。また、ホームが入っている法人の建物(介護センター)全体でボランティアを受け入れており、月1回お茶会を開催するなどの取り組みも行っている。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価結果を踏まえ、家族へ毎月ホーム便りを発送したり、ホームの広いベランダを気分転換の場所として活用するなど、具体的な改善に取り組んでいることが確認できた。また、自己評価は職員全員が作成した上、会議を通じて取りまとめられている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2～3ヶ月に1回のペースで実施されている。会議においてはホームの状況の定期報告や意見交換が行われている。		家族からの提案がきっかけとなり、家族等の協力を得ながら2ユニット合同でマイクロバスを借りての外出が実現するなど、会議の開催が外部からの意見等を取り入れる良い機会となっている。また、会議の議事録はこまめに整備しておくことが望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入退居届けや各種申請代行など、行政手続き上のやり取りは日常的に行っている。対応は「介護センター」の事務職員のほか、ホームの職員も行っている。		
4.理念を实践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の状況や職員の異動等については、毎月発行のホーム便り「ぬくだまる」で伝えている。その他、入居者の体調変化等、必要に応じ随時電話連絡をしている。入居者の金銭管理については、委任状を交わした上で支援している。3ヶ月に1回出納帳のコピーを家族へ送付し、署名捺印された「確認証」をホームで保管している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付の窓口、担当者は重要事項説明書に明記されている。また、苦情の受付箱「心の窓口」をホームのエレベーターホールに設置している。		家族等の意見や苦情等を受け付ける「相談日」を設け、それをホーム便りで家族等に知らせる取り組みを実施予定である。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人全体での異動はあるが、ホームを含めた「介護センター」に関わる異動は少なく、入居者への影響は最小限に抑えられている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や計画作成担当者が、日々の業務におけるスーパーバイズ等を通じて職員を育てる取り組みを行っている。昨年11月に2ユニット体制に移行してからは、法人外の研修に参加する機会を確保することが難しい状況である。	○	何らかの形で年間の研修計画を作成し、職員が認知症ケア等、各種の外部研修に参加する機会を確保できるような取り組みが望まれる。また、今後法人単位、もしくはホーム単位などで、現場の業務に関わる内部研修を開催していくことも期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホームが入っている法人の建物(介護センター)全体の職員が交流する機会が設けられている。地域の、他のグループホーム等と交流する取り組みについては十分とは言えない。	○	地域の他事業所にも関わるテーマではあるが、例えば他グループホームへの訪問交流等を通じ、職員が他事業所の実践事例や情報を得られるような機会を設定していくことも、今後の取り組みとして期待される。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	ホームの利用希望がある場合は、見学や実際の生活場面の一部に参加してもらうなどの取り組みを行っている。また、サービスの開始にあたっては、本人の馴染みの物を気兼ねなく持参してもらうよう家族に話したり、本人が場の雰囲気に馴染みやすいように食事の座席を工夫するなどの配慮をしている。		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者に対して何かを強制したり、プライドを傷つけたりすることのないように接している。調理の場面では、職員が入居者に味付けを教わることがあるなど、「共に生活している」意識を持って接していることも確認できた。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の聞き取りの際は本人や家族の状況を把握するよう努めており、「相談記録」に記載している。また、普段の生活の中からも、入居者の思いや要望を受け止め、支援に活かすようにしている。		「相談記録」の中に、入居前における本人や家族の意向・希望をより明確に記録しておくことが今後も期待される。
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを実施した上で、入居者のニーズを踏まえた介護計画を作成している。本人や家族の状況は入居時に作成する「相談記録」で把握しているが、介護計画を作成する前提としての「アセスメント」に関わる様式が作成されていない。	○	本人や家族等の状況や意向、希望を明確に介護計画に反映させるために、アセスメント票を作成することが望まれる。また、ケアカンファレンスの会議録を整備し、職員や本人、家族等と話し合った経過を記録として残しておくことが期待される。
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じた見直しのほか、要介護度の変更に伴う見直しも行われ、次の介護計画につなげているが、介護計画書の「評価」の欄に記載がない。	○	今後は「支援を実施した結果」「評価」及び「評価した日付」を明記し、次の介護計画作成の根拠や流れが明確になるように取り組むことが望まれる。
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算と短期利用共同生活介護の指定を受けており、事業所の多機能性を活かす体制が整っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれの入居者のかかりつけ医に受診しているが、救急時や入居者からの要望があれば協力医療機関での受診も行っている。法人の建物内に訪問看護ステーションがあり、入居者の体温等の情報を毎日伝えるなど、いつでも相談できる体制が整っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在まで終末期の支援を行った事例はないが、ホーム独自に「重度化した場合における対応に関する指針」を作成しており、入居の際に家族へ説明している。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者に対する言葉かけや対応は、一人ひとりの自尊心やその時の感情を尊重したものとなっている。入居者の個人情報の使用に当たっては、入居時に同意を得ており、個人情報に関わる各種記録も適切に管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、日常会話の中で入居者の希望を聞き取り、食事メニューの決定や外出などの支援に反映させている。食事の場面においても、入居者を急がせたりすることなく、ゆっくり時間をかけながら支援している。		昨年から2ユニット体制となり、ホームの生活空間や職員体制も変わってきているが、今後も入居者のペースや思いを尊重した支援を継続していくことが期待される。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は入居者の生活歴を把握した上で、調理や配膳、後片付け等の場面に参加できるように支援しており、入居者が楽しみながら行っている様子が伺えた。プランターで収穫した野菜は食卓に出され、入居者に喜ばれている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	基本的に週3回の入浴支援を行っているが、入居者の要望があれば、曜日にかわらず入浴を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の様々な場面において、ほぼ全員が何らかの役割を持てるように支援している。また、ホームの広いベランダを活用して、プランターを並べて野菜づくりを行うなど、入居者が楽しんだり気分転換ができるような場面づくりに努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の散歩や買い物、ドライブなど、入居者の希望に合わせて随時外へ出かける機会を設けている。		今後も、引き続き入居者が外へ出かける機会を確保し、外出支援を継続していくことが期待される。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	居室の扉には鍵を設置していない。ホームが建物の3階部分にあるという構造上、エレベーターホールが実質的なホームの玄関となっている。一人で外へ出て行きそうな入居者がいる場合は職員が付き添い、本人が納得してからホームに戻るよう支援している。		エレベーターのボタン部分には鍵は付いていないが、スライド式のガードが取り付けられている。入居者の安全確保の面から止むを得ない部分もあるが、ガードの使用については今後も引き続き検討を重ねていくことが望まれる。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームの入っている「介護センター」の建物全体で半年に1回、避難訓練を実施している。		夜間想定避難訓練を実施予定である。また、今後も休日想定やフロア別訓練など、段階を踏んでから徐々に地域の協力を得た避難訓練を実施していく予定であることを確認した。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の食事や水分の摂取状況は毎回チェックし、記録しているほか、協力医療機関の栄養士が3ヶ月に1回、献立をチェックしている。また、入居者の状況に応じておかゆを用意したり、食材を軟らかく煮るなどの配慮をしている。		栄養士による献立表のチェックは前回の評価からの改善事項である。
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	もと病棟であったスペースを改装している。ホーム全体に季節感のある飾り付けをしたり、リビングなどの共用スペースには暖かい色調の壁紙を貼り、木製のテーブルや椅子を置くなど、家庭的な生活空間づくりに工夫が見られる。台所も広く、入居者が配膳や盛り付け等をしやすいように低めのサイドテーブルを用意している。	○	既存のスペースを、創意工夫によって生活の場として活かそうとする姿勢が伺われる。今後も、例えば床に座って過ごす共用スペースを検討するなど、更に入居者が居心地よく過ごせるような空間づくりが期待される。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具や馴染みの物を自由に持ち込むことができる。入居の際、職員から入居者の家族等にも説明している。		

 は、重点項目。